

5 友達といっしょに遊びに行く



5課では友達と一緒に話し合って決める場面でのインターアクションに必要なポイントを学びます。

例1 遊びに行く約束をするとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生（右）と日本人学生（左）は、この日交流パーティーで初めて会い、仲良くなり、メールアドレスの交換をしている。
2コマ目	2人は1カ月後に偶然学食で会い、日本人学生から留学生に「今度飲みに行こうね！」と声をかけている。
3コマ目	2人は2カ月後に再び偶然廊下で会う。日本人学生が「週末にでも遊びに行きたいねー」と言ったので、留学生は土曜日の予定を聞く。
4コマ目	日本人学生は週末いつもアルバイトなので「今度ね」と言って留学生の誘いを断る。留学生はいつ日本人学生と遊びに行くことができるのか困惑している。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、日本人学生は「週末はいつもアルバイト」にも関わらず、どのような意図で「今度飲みに行こう」「週末にでも遊びに行きたい」などと言ったのかについて考えることがポイントです。
- 「今度、飲みに行きましょう」「時間があるとき連絡しますね」「暇なとき、遊びにきてください」などは、「誘い」そのものとしてではなく、挨拶のようなものやいわゆる社交辞令として使われることも少なくないようです。また、「今度ね」は日本語では、婉曲的な断り表現として使う場合もあります。学習者の言語・文化にも、このようなやり取りがあるか、どんな場面でこのようなやり取りをするかなど、学習者の言語・文化も含めて話すことが重要です。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 4コマ漫画の例のような状況で、日本人学生と実際に遊びに行く約束をするには、どうすべきかを話し合ってみてください。
- 留学生から、日本人学生と会う約束ができないという話も聞きます。日本人学生はアルバイト、サークル活動などをしている人が多いこと、都心に通う大学生は通学時間が長いことなど、「なぜ会うことが難しいか」について社会的な背景を考えることも大切です。
- 何回も断られると、誘いにくくなってしまいますので、まず空いている日を聞いてから誘うなどの誘い方の戦略や、誘って断られた後、次にどうつなげるかなどについて考えてもいいと思います。

例2 食事の場所を決めるとき**1. 各コマについて**

1コマ目	留学生（右下）と日本人学生3人で食事の場所をどこにするか話し合っている。
2コマ目	留学生は「焼肉が食べたい」と言うが、日本人学生は乗り気ではない。
3コマ目	日本人学生の1人が、「ファミリーレストラン（ファミレス）ができた」と言うと、他の日本人学生も「いいね」と乗り気である。日本人学生の間では食事の場所は「ファミレス」に決定した様子。
4コマ目	留学生はどこに決まったかを理解できずに、5分後に食べに行く場所を聞いている。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、相手に配慮した提案、否定、合意の仕方などについて話し合うことがポイントです。さまざまな場面で、相手に配慮して話す場合があるということを理解してもらうことが重要です。
- 4コマ漫画の例について、留学生は「なぜどこに決まったのか理解できなかったのか」を確認し、日本人学生たちは、「なぜそのような態度を取ったのか」について気づけるといいでしょう。
- 場面・状況、相手との関係、個人の性格によって曖昧な話し方をしない場合もあるので、日本人が一般的にこのような話し方をするという説明にならないようにしてください。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 2コマ目の日本人学生のセリフ「焼肉かあ」「えー。焼肉？」「焼肉ねえ」は音声情報があると、より発話意図などが理解しやすくなります。教師が読んでみるといいでしょう。
- 「自分が主人公ならどうするか」「自分が日本人側（乗り気ではないことを伝える側）だったらどうするか」を考え、意見を出し合うといいでしょう。
- この漫画の例に対する学習者の反応が薄い場合は、学習者にできるだけ身近な場面を挙げ、相手を傷つけないように断りたいときはどうするか、相手の意見を尊重しながら反対意見を言うときはどのように伝えるかなどについて話し合うといいと思います。
- 留学生からは「日本人の否定や断りは曖昧でわかりにくい」という意見が出るかもしれません。「なぜ日本人はそのような否定や断りをするのか」を考え、「背景には相手に対する配慮があるようだ」ということに気づいてもらえるといいと思います。

例3 遊びに行く場所を決めるとき

1. 各コマについて

1コマ目	留学生（左下）と日本人学生（美咲：右上）が電話で日曜日の予定を決めている。留学生は以前、美咲が「家に遊びに来て」と言っていたのを思い出し、美咲の家に遊びに行きたいと言う。
2コマ目	美咲は焦った様子で遠回しに（曖昧に）断る。留学生は美咲が断っていることに気がつかず、もう一度美咲の家に行きたいと言う。
3コマ目	美咲はもう一度、「家が古くてせまい」と言うことによって曖昧に断っているが、留学生はまだ断っていることに気がつかず、「だいじょうぶ」と言っている。
4コマ目	留学生は日曜日に行くということを伝え、美咲は留学生が家に来ることになって困った様子である。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、「曖昧な断り方」と「家に招待すること」についての2つのポイントを取り上げました。まず、「美咲（日本人学生）はなぜ困っているのか」「この漫画ではどのようなミスコミュニケーションが生じているか」について話し合うことがポイントです。
- 留学生の中には、家に呼ばれないことで友達として認めてもらっていないと感じるなど、「家に遊びに行く」ことへの考え方の違いから、問題が生じる場合があるようです。日本では、「家が小さい」「掃除ができていない」などの様々な理由で、家族や親戚以外の人を家に招待しない人もいます。「家に呼ばない」から「友達ではない」ということに結びつくわけではないことを理解してもらいましょう。また、「家に遊びに来て」という表現は、は例1でも取り上げたように、挨拶のようなものやいわゆる社交辞令として使われることもあるということを理解してもらえるといいでしょう。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 「美咲の断り方が曖昧でわかりにくい」という意見があるかもしれません。音声情報があると、より発話意図などが理解しやすくなります。教師が2コマ目・3コマ目の美咲のセリフを読んでみるといいでしょう。そうすることで、「なぜ日本人はそのような否定や断りをするのか」を考え、「背景には相手に対する配慮があるようだ」ということに気づきやすくなるでしょう。
- この課で取り上げたこと以外に、日本人の友達との付き合い方で不思議に思ったことなどについて話し合うといいと思います。